

4-1-6-4 心臓血管外科

1. 概要、特色

1.1 概要

主に先天性心疾患の外科治療を行っている。心疾患の外科治療は、人工心肺（体外循環）を必要とする開心術と、人工心肺を使用しない非開心術がある。純粹に後天的な心疾患の外科治療は原則として行っていない。

1.2 特色

成育医療の考え方から、対象となる症例は胎児診断のついている新生児症例から、先天性心疾患に対する治療を小児期から受けていて、成人期に入っても継続的に治療を必要とするキャリアオーバー症例のうち、特に原疾患の遺残症、続発症に対する外科治療が必要となる症例までが含まれてくる。特に後者は従来の小児対象の病院ではカバーしきれなかった症例が対象となるため、成人の全身的管理を含むより幅広い集学的医療が求められ、外科的手技を含めてレベルの向上を目指すことが求められていると考える。

2. 診療活動

2.1 入院診療

入院診療の中心は外科治療（手術）である。

2002年3月開院以降手術室体制の確立を図りながら、非開心術は4月から、開心術は5月から開始し、7月にはほぼ目標とするペースを達成できた。手術日は火曜、木曜、金曜を大まかな定時手術日とし、火曜、木曜に人工心肺（体外循環）が必要な開心術を、金曜に人工心肺を使用しない非開心術を行っている。これは外来診療（完全予約制）とバランスをとりながらのスケジュールであるが、緊急手術にも随時対応できていると考えている。

2.2 手術症例概要（2003.4.～2004.3.）

2.2.1 開心術

手術総数 83 例

手術時年齢：5日～34才

内容：心室中隔欠損閉鎖 25例、心房中隔欠損閉鎖 5例、ファロー四徴症（肺動脈閉鎖を含む）根治 12例、総肺静脈還流異常症根治 1例、フォンタン型手術 3例、右室流出路再建術 10例、弁置換術 6例（僧帽弁 2、肺動脈弁 2、三尖弁 1、共通房室弁 1）、グレン吻合 5例、右室二腔症根治 2例、大動脈弁下狭窄切除 2例、直視下大動脈弁交連切開 2例、心内膜床欠損症（部分型）根治 1例、弁形成術 3例（僧帽弁 1、三尖弁 1、共通房室弁 1）、その他 6例

2.2.2 非開心術

手術総数 39 例

手術時年齢：10日～35才

内容：体肺動脈短絡手術 13例、ペースメーカー関連手術 8例、大動脈縮窄症手術 5例、動脈管閉鎖術 4例、肺動脈絞扼術 2例、肺動脈形成術 1例、その他 6例

2.3 外来診療

外来は毎週月曜、水曜、金曜の午後に診療を行っている。それぞれ常勤の医師3名で、医師別の枠を設けている。診察予約可能枠数はすべて合わせると、月曜、水曜、金曜でそれぞれ36名、36名、12名である。このうち原則として毎月第3金曜（休日等で診療ができない場合は翌週の金曜）は特殊外来としてペースメーカー外来にあてている。循環器科外来と時間枠、診察室を近接させ、診療面での柔軟性を高めるよう努めている。